



報道機関 各位

糖尿病の自己管理に役立つシールが完成 糖尿病連携手帳とともに患者さんの毎日を応援します

2018年4月10日

公益社団法人日本糖尿病協会

公益社団法人日本糖尿病協会（理事長：清野裕／関西電力病院総長 所在地：東京都千代田区）は、公式マスコットキャラクターの「マールくん」を用いて糖尿病患者さんの自己管理に役立つ「自己管理応援シール」を制作し、ホームページで無償提供を始めました。日本糖尿病協会が普及をすすめる「糖尿病連携手帳」（※1）に貼付することで、糖尿病療養支援における相乗効果を狙います。

自己管理応援シールは4種類あり、糖尿病治療の重要な指標である「HbA1c」（ヘモグロビン・エー・ワン・シー／過去1～2カ月の血糖値の平均を反映する数値）に関するものと、薬物療法での低血糖の注意喚起に関するものに分かれています。



「HbA1c」シールは、糖尿病治療において標準的な血糖コントロールの目標値である「7%未満」を強調するものと、個々の患者さんの目標値を記入できるものに分かれ、治療目標に対する意識の定着を目指しています。また、薬物療法シールは、処方された薬剤の低血糖リスクの有無を表現し、服薬アドヒアランスの向上を目指します。

これらのシールは、医療機関で利用することを想定しています。受診時に患者さんが持参した「糖尿病連携手帳」の表紙に医療者がかわいらしいシールを貼ることで、医療者と患者さんの距離が縮まり、療養を応援しているというメッセージを伝えることもできます。

この自己管理応援シールは、市立八幡浜総合病院（愛媛県八幡浜市）の糖尿病チーム（酒井武則医師）のアイデアを嶋田病院（福岡県小郡市）の西岡恵子看護師がデザイン化し、最終的に日本糖尿病協会が完成させました。発表前の試用では、患者さんの自己管理に対する意識の向上がみられ、患者・医療者双方から好評を得ることができました。

PRESS RELEASE



シールの公開に際し、理事長の清野裕は「糖尿病は、適切な自己管理をすれば、健康な人とかわらない健やかな生活を送ることが可能です。糖尿病がもつネガティブなイメージを払しょくし、患者さんが積極的に楽しく療養を継続するために、このシールはたいへん有効だと考えます。糖尿病連携手帳とともに、全国の医療現場で活用いただけることを期待しています」と述べています。

★自己管理応援シール ダウンロードページ★

日本糖尿病協会トップページ⇒「患者さんへ」⇒「療養グッズのご案内」⇒「自己管理応援シールの作り方」

https://www.nittokyo.or.jp/modules/patient/index.php?content_id=88

(※1) 糖尿病連携手帳

日本糖尿病協会が2010年に発行した、糖尿病医療連携のための手帳です。糖尿病治療や合併症予防の様々な検査結果が記入できるだけでなく、歯科、眼科の記入欄や療養指導の記録欄も設け、1人の患者に関わるすべての医療者が情報を共有することが可能となっています。

さらに、2016年からの「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」の推進では、保健師による特定保健指導で糖尿病連携手帳の使用が推奨されたことから、保険者である市町村での活用も急増しています。

累計発行部数は、約1,700万部。製薬・医療機器企業等の協力を得て、医療機関・薬局を通じて患者に無償提供しています。

■公益社団法人 日本糖尿病協会について

日本糖尿病協会は、糖尿病に関する正しい知識の普及啓発、患者及びその家族への療養指導、国民の糖尿病予防、健康増進への調査研究を行うことを目的に、1961年（昭和36年）に結成されました。現在の会員数は、110,000人。糖尿病患者とその家族、医師、看護師・栄養士・糖尿病療養指導士などの医療スタッフおよび糖尿病に関心のある一般市民で構成されています。47都道府県支部の下に約1,600の糖尿病「友の会」を置き、患者間の交流や、地域社会への糖尿病啓発活動を通じて、日本の糖尿病の抑制を目指しています。1987年（昭和62年）に社団法人となり、2005年（平成17年）に特定公益増進法人、2013年4月（平成25年）からは公益社団法人になりました。

◇本件に関するお問い合わせ◇

公益社団法人日本糖尿病協会 担当：堀田

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725 email : hotta@nittokyo.or.jp

www.nittokyo.or.jp / [facebook.com/nittokyo](https://www.facebook.com/nittokyo)